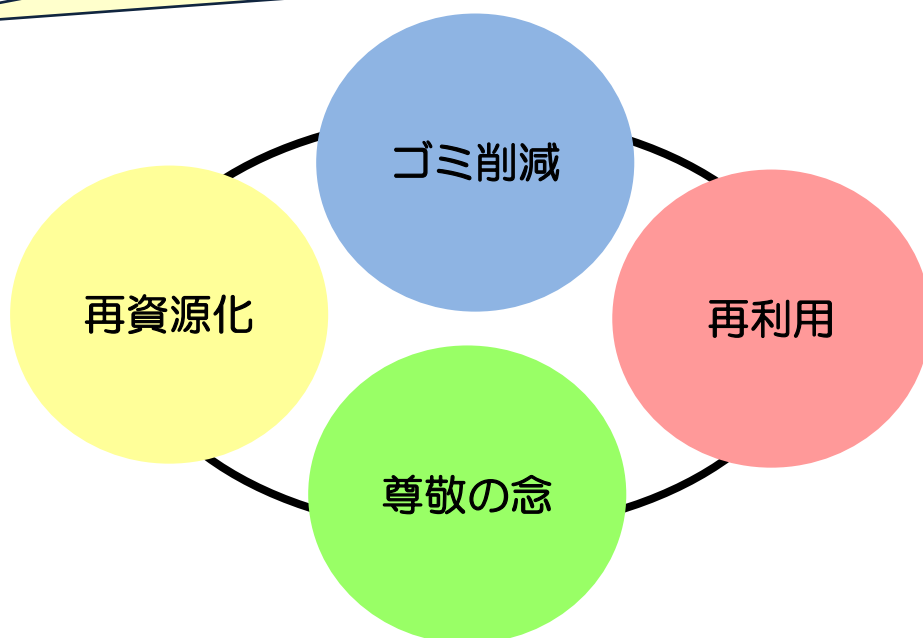


# 子供たちに伝えたい日本のよさ

『MOTTAINAI（もったいない）』

—2004年ノーベル平和賞受賞者 ワンガリ・マータイさん—

「もったいない。」という言葉は、どんな場面で使いますか？



【このような場面での活用が考えられます。】

- 朝礼の講話
- 関連する授業や道徳の授業の導入での話題提供や終末での説話
- 学校だよりや学級だよりのコラム
- 学年集会や学校行事等での講話 等

# 今月のテーマ -MOTTAINAI (もったいない) -

## ものに対する感謝の心

「もったいない」とは「そのものの値打ちが生かされず無駄になるのが惜しい」『広辞苑 第六版』という意味の言葉です。

平成16(2004)年にノーベル平和賞を受賞したケニアのワンガリ・マータイさんが、毎日新聞社の招聘で平成17(2005)年2月の来日滞在中に感銘を受けた言葉が、『もったいない』という日本語でした。

### 『環境 3R + Respect = もったいない』

「Reduce (ゴミ削減)、Reuse (再利用)、Recycle (再資源化)」という環境活動の3Rを一言で表せるだけでなく、かけがえのない地球資源に対するRespect(尊敬の念)が込められている言葉が「もったいない」です。

マータイさんはこの美しい日本語を、環境を守る世界共通語「MOTTAINAI」として広めることを提唱しました。

こうしてスタートしたMOTTAINAI (もったいない) キャンペーンは、地球環境に負担をかけないライフスタイルを広め、持続可能な循環型社会の構築を目指す世界的な活動として展開しています。

日本から生まれた「もったいない」が今、世界をつなげる合言葉「MOTTAINAI」になっています。

ワンガリ・マータイさんは、昭和15(1940)年、ケニアの中部、ニエリの農家に生まれました。マータイさんは、家族に支えられながら学校に通い、昭和35(1960)年に政府留学生に選ばれました。

その後、アメリカの大学で修士号を取得し、さらに、ドイツ留学を経て、昭和46(1971)年にナイロビ大学で生物分析学の博士号を取得しました。

一方で、マータイさんは、祖国の貧困や環境破壊に心を痛め、昭和52(1977)年、「グリーンベルト運動」という植林活動を開始しました。この運動には延べ10万人以上が参加し、植えた苗木は5100万本にも上ります。

平成16(2004)年、環境や人権に関する貢献が評価され、環境分野で初めて、アフリカの女性として初めて、ノーベル平和賞を受賞しました。

「もったいない」は「そのものの値打ちが生かされず無駄になるのが惜しい」という意味の言葉で、ユネスコが提唱する持続可能な開発のための教育(ESD)にもつながるものです。

世界の状況を見つめ、将来の社会を見据えながら、自らが生きる社会を持続可能な社会にしようとする価値観をもち、行動することの大切さに気付かされます。

## 日本の伝統・文化紹介

### 【日本の文化と音】



昔から日本人は、自然の音や環境の音を生活の中にもうまに取り入れ、機能性と情緒性を豊かに調和させてきました。

例えば、「ししおどし」です。本来、田畑を荒らす鳥獣を音で追い払うためのものでしたが、現代では竹が石を叩（たた）く音と水を楽しむために、日本庭園の装飾として設置されています。また「水琴窟」は、江戸時代、庭師などによって各地につくられたもので、排水という機能に、美しい音を楽しむという風情が加味されています。「ウグイス張り」と呼ばれる寺院の渡り廊下や「鳴き龍」のように、建築物の構造と関わって生じた響きから、自然やそれを越えた力を感じ取っている場合もあります。

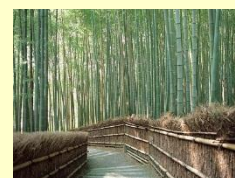
さらに、詩歌からも読み取ることができます。「閑（しずか）さや 岩にしみ入（い）る 蝉の声」（松尾芭蕉）や「すす風や 力いっぱい きりぎりす」（小林一茶）、「いづくにか しろしの糸は つけぬらむ 年々（としどし）来鳴（きな）く つばくらめかな」（樋口一葉）など、虫や鳥の声に風情を感じて詠まれた俳句や短歌が、数多く残されています。

身近な生活の中に、音から風情を感じるものを探してみてください。



さらに、詩歌からも読み取ることができます。「閑（しずか）さや 岩にしみ入（い）る 蝉の声」（松尾芭蕉）や「すす風や 力いっぱい きりぎりす」（小林一茶）、「いづくにか しろしの糸は つけぬらむ 年々（としどし）来鳴（きな）く つばくらめかな」（樋口一葉）など、虫や鳥の声に風情を感じて詠まれた俳句や短歌が、数多く残されています。

身近な生活の中に、音から風情を感じるものを探してみてください。



## 特色ある取組

### 【都立町田総合高等学校】

### 学校設定科目「日本文化」【合気道】



開校年度より学校設定科目として「日本文化」を1年次に1単位設定しています。

「日本文化に共通して見られる礼儀作法」や「立ち居振る舞いの美しさ」、「日本人としての精神性」を学ぶとともに、これからの国際社会に生きる一員として多様な文化を尊重できる態度や資質を育み、自国の文化の理解を深めることを目的としています。

生徒は、華道・茶道・空手道・合気道・和太鼓・伝統音楽、詩吟の中から選択することとしています。

合気道では、技の習得を通して礼儀作法、所作等を学びながら武道の考え方を理解するとともに、心身の鍛錬技法として、身体の柔軟性を高め、心と身体を育てています。9月の文化祭で、地域の方々や保護者に披露し、2月には成果発表会を行っています。



## 伝統・文化に関するイベント等

### ★都立多摩図書館



#### ○青少年エリアミニ展示「BONSAI 盆栽」「森の仕事」

日本の伝統文化であり、いまや“BONSAI”として海外にも愛好家が多い盆栽。盆栽を手軽に楽しむためのアイデア、鑑賞のポイントなど、盆栽に関する本を展示しています。

またキャリアデザインコーナーでは、「森ではたらく! 27人の27の仕事」(古川大輔編著 山崎亮編著 学芸出版社)をはじめ、森に関わる様々な仕事の本を展示しています。

### ★都立中央図書館

#### ○ミニ展示「初夏の愉しみ」



(平成27年7月1日(水)まで 3階人文科学系資料・閲覧室)

『歌川国貞(うたがわくにさだ)美人画を中心に』

(歌川 国貞画 静嘉堂文庫 1996刊)、

『端午玩具集 上、下』(西沢笛畝筆 芸艸堂 1976刊)

ほか、初夏を彩る花々や、季節の行事に関する図書を展示しています。

#### ○美術情報棚展示「上村松園と女性画家たち」

(平成27年7月1日(水)まで 3階人文科学系資料・閲覧室)

渋谷区の山種美術館で開催されている特別展「上村松園 生誕140年記念「松園と華麗なる女性画家たち」」に関連し、清らかで端正な女性像を描いて人気を博した日本画家・上村松園に関する図書を紹介します。



### ★「キッズ伝統芸能体験」参加者募集!

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団では、芸術文化の創造・発信を推進し、東京の魅力を高める多様な事業を展開しています。その一環として、「芸術文化を通じた子供たちの育成」に取り組んでおり、子供たちが伝統芸能を体験できる機会を提供する「キッズ伝統芸能体験」を実施しています。

本事業は、子供たちが能楽、日本舞踊、三曲及び長唄の一流の芸術家から直接指導を受け、その成果を舞台上で発表するもので、伝統芸能の魅力に触れることができる、またとない機会です。

日本舞踊、三曲(箏曲)、長唄(三味線)については、中学生・高校生を対象とした特別コースも設けています。伝統芸能のひのき舞台に、あなたも立ってみませんか?

○実施期間:平成27年8月から平成28年3月まで

ユース特別コースは、平成27年12月から平成28年3月まで

※平成27年8月23日(日)開講式

○参加費:10,000円

○詳細・お申し込みは「キッズ伝統芸能体験」公式サイトで!

[www.geidankyo.or.jp/kids-dento/](http://www.geidankyo.or.jp/kids-dento/)



※本資料に対する御意見・御感想や、本資料の活用実践等がありましたら、以下担当へ御連絡ください。今後の資料作成の参考とさせていただきたいと考えております。

#### 【担当】

東京都教育庁指導部指導企画課

03-5320-6869